

第4回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会 議事録（要旨）

日 時： 令和6年7月4日(木) 午後7時～午後8時40分
場 所： 吉川町公民館 研修室
出席者： 岩崎 正勝 令和5年度吉川地区区長協議会長
福本 和也 吉川地区区長協議会
富依 裕仁 吉川地区区長協議会
森下 顕 吉川町まちづくり協議会
谷郷 祐次 吉川町まちづくり協議会
白木 拓真 吉川町まちづくり協議会
山田 知美 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
青島 静香 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
中上 智貴 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
阪本 俊治 吉川小学校 PTA
山田 一貴 吉川小学校 PTA
福田 亮 吉川中学校 PTA
藤本 理恵 吉川中学校 PTA
杉原 千二三 吉川小・中学校学校運営協議会
富田 佳泰 吉川小学校 校長
河原 正則 吉川中学校 校長
(事務局)
森田眞規教育総務部長、鍋島健一教育振興部長
武内克朗小中一貫教育推進室長
本岡伸朗小中一貫教育推進室主査
河賀健太郎小中一貫教育推進室主査

傍聴人の数：3名

(会長)

定刻となったので、ただいまから第4回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会を開会する。委員の皆様におかれては、大変ご多用の中、ご出席いただき感謝申し上げます。先般、能勢ささゆり学園と東条学園の視察に多数ご参加いただき感謝申し上げます。実際の学校現場を見たり、先生方の説明も聴いたりして、施設一体型小中一貫校のイメージが湧き、大変良い機会だったと思う。

先週、吉川町内で交通事故があり、高校生が亡くなった大変痛ましい事故があった。多くの工事車両が走っているが、安心して通学できるような環境が大事だと感じている。

まず資料確認をする。本日の次第、別紙1、別紙2の3点である。

それでは、前回の協議会での委員からの質問や教職員部会での意見集約、先進校視察の開催状況等について事務局から説明をお願いする。

（事務局）

事務局より次第の3点について説明させていただくが、その前に、7月1日の神戸新聞の「三木市の市政施行70周年記念特集」の市長インタビューで、小中一貫校のことについてもふれられており、「早ければ令和11年度（2029年度）開校をめざしていきたい」との方向性が示された。具体的な時期が示され、我々はこれからいろいろな協議を重ねていき、しっかり準備を進めていきたいという気持ちでいる。本日も皆様より貴重なご意見をいただきたい。それでは説明に入る。

まず、第3回地域協議会においていただいたご意見・ご質問について説明する。前回いただいた質問を4つに集約した。まず一つ目、「吉川と同規模の特認校制度を導入した学校で、導入に向けた特徴的な施設設備はあったのか、またその学校の教育内容の詳細について教えてほしい。」というご質問だった。これについては、吉川と同規模で特認校制度を導入している小中一貫校は現在兵庫県内には無いため、直接比較検討することはできなかった。学校規模が少し大きくなるが、特認校制度を導入している他の学校に問い合わせたところ、制度の導入に向けて新たに施設設備を整備したことはないとの回答を得ている。また特徴的な教育内容について聞いたところ、例えばふるさと教育や、ICT教育、低学年からの英語教育、また高校と連携した学び等の回答を得た。

続いて、「開校までに学校や教育委員会、地域など、それぞれの立場において段階的に取り組めることはないか。」というご質問だった。これについては、学校に関しては、現在、吉川小・中学校で取り組んでいる児童生徒や教職員の交流活動の活性化をさらに図っていくとともに、9年間の系統性のあるカリキュラム作りを進めていくことが最も重要なことと考えている。また、交流研修等の充実によって、教員の資質やスキルの向上に繋げていく必要性もあると考えている。教育委員会においては、円滑な開校に向けて、より具体的な学校のあり方を検討する開校準備委員会等の発足など、関係組織づくりを進めていくことが大切であると考えている。地域に関しては、よりよい学校づくりに向けて、引き続き様々な立場でご意見をいただきたいと考えている。

続いて、「吉川の小中一貫校は吉川の児童生徒が対象だが、事務局としては隣接する校区の児童生徒にも来てもらえるような方向性は必要だと考えているか。」というご質問については、第1回の地域協議会で説明したとおり、多様な人間関係を創出するとともに、一定数の児童生徒増に繋がることが期待される特認校制度の導入について前向きに検討したいと考えている。したがって、魅力ある教育活動を充実させ、近隣地域に限らず、市内どこからでも受け入れ可能な教育環境の実現をめざしていきたいと考えている。

最後は、「バスや自転車を含めた通学方法」に関する質問であった。このことについては、学校の設置場所によって、児童生徒の負担軽減のために必要に応じて現在の

通学方法を柔軟に見直すことも必要と考えている。

なお、これらの質問以外にも、必要な予算規模や用地買収に必要な期間、校舎の階数等についても質問があったが、現時点では必要な建物のあり方が決まっていないため、具体的にお答えできない。

＜事務局説明（小野市の小中一貫教育について）＞

次は教職員部会で出た意見、質問について説明する。

教職員部会は4月に発足し、今まで3回の協議を重ねてきた。委員は小・中学校の管理職および学年主任や小中一貫教育担当、研究推進担当、生徒指導担当、不登校担当の12名で組織し、これまで地域協議会で検討してきた同じテーマに対して教育の専門的な見地も踏まえ、協議を重ねている。

まず「めざす児童生徒像」について、教職員部会で出た主な意見を集約したものを表記している。一例として、「社会的自立に必要な力」や「多様な仲間と関わり協働する力」、「自己肯定感の向上」、「ふるさとに誇りを持った子」などのキーワードが出ている。これらのキーワードは、地域協議会での意見とほぼ整合性がとれるものと判断し、改めて吉川の一貫校で学ぶ児童生徒に育成したい力として、「自己実現のための学力」、「豊かな人間性や人と関わる力」、「健やかな心と体」、「ふるさととつながる力」等を骨子にしながら、検討を重ねていきたいと考えている。

「大切にしたい教育内容」についても、共通の内容でまとめることができた。特に交流学习については、今までのように学校間の距離や移動時間などに制約されることなく、柔軟でより効果的な交流活動が可能になることに大きな期待が寄せられた。また、英語や国際理解教育については、市内において外国籍の児童生徒が増加していることも踏まえ、吉川においても多文化共生教育などにも力を入れるべきとの意見もあった。

続いて「施設設備のあり方」については、5つの視点で協議を進めた。方向性は地域協議会とほぼ同じだが、日々の教育活動にあたっている教職員ならではの細かな意見を集約することができた。例えば「学びの視点」では、日常生活における児童生徒のより効果的な交流をめざした動線のあり方をはじめ、個別のニーズに対応できる使い勝手の良い施設設備などの意見が出た。また、「共創の視点」では、児童生徒だけでなく、多世代との活発な交流に向けて、学習や行事などで自由に使える交流スペースがあればという意見も出たほか、多くの保護者や地域の方々の来校に対応するための広い駐車場が必要であるとの意見も出た。そして「安全の視点」では、特に児童生徒の命に関わることから、「スクールバスの運行に係る児童生徒の待機場所」や「余裕のあるバスロータリーの確保」をはじめ、「敷地内での徒歩や自転車、バス、自動車などの安全な動線の検討」が重要ではないかという意見もあった。また、気象警報発令時には、町内全域からお迎えの対応が必要となり、保護者への安全かつ円滑な引き渡しの必要性からも、スムーズな動線を考慮した広い駐車場について改めて意見があった。他には地域の防災拠点としての機能についても意見があり、避難所を想定した空調設備のあり方についても検討を重ねていく必要があると考えている。教職員部会での大まかな協議内容については以上である。

地域協議会の意見と教職員部会の意見には、共通する部分も多いと感じている。

今後、両部会で協議した意見を参酌しながら、基本構想案づくりを進めていきたい。なお、教職員部会でもいくつか質問や意見が出たので、地域の皆様と共有する。

まず一つ目、「小学校6年生の卒業式はあるのか。」という質問だが、これは一般的に小中一貫教育を行う義務教育学校においては、従来の小学校6年生の卒業式を設定していることは少ない。ただ、先進校では急激な環境の変化を避けて、例えば前期課程修了式などを実施しつつ、段階的に移行を進めていくなどの工夫をしているという事例がある。今後、吉川の小中一貫校の設置形態については、学校全体のマネジメントの一貫性も重視しながら、教育委員会で検討を重ねたい。

続いて二つ目、「部活動の地域移行や教職員の関わり方について」という意見も出た。現在、学校の部活動は、地域の人々が指導する地域クラブへ移行するため、三木市では令和6年度にガイドラインの作成およびモデルクラブとして、ゴルフ部の活動開始のための準備を進めている。また、教職員の関わりについては、従来の中学校教員による顧問という考え方ではなく、教員が指導可能であれば、地域クラブの一指導者としての位置づけで関わることを想定している。

続いて三つ目、「教職員の多忙化解消について」ということだが、これも先進校への聞き取りの結果、開校直後はやはり課題はあると聞いている。ただ、課題というのは子どもたちにとって決してデメリットになるということではないとも聞いている。したがって、例えばICTの効果的な活用や、会議の持ち方の工夫、教材教具の共有など、先進校の中で効果のあった取組を吉川にも取り入れることで、多忙化解消に繋がりたいと考えている。

最後の四つ目、「水泳指導の外部委託、民間委託等について」の意見も出た。近年、学校教育における水泳指導の民間委託が試験的に実施されるようになってきているが、一般的に委託のメリットとしては、専門指導員による泳力向上、これが一番大きいと思う。あとはプール施設の維持管理費の削減や、教職員の業務改善に繋がると考えている。また、天候に左右されないメリットもある。熱中症アラート等に影響されず、指導機会の確保が確実にできるという利点もある。近隣他市町でもモデル校を実施して試験的に運用を始めたと聞いているが、三木市においても他市の動向を注視するとともに、全市的な視点でこれからのあり方についても考えていく必要があると考えている。以上、教職員部会からの意見や質問に対する回答である。

<事務局説明（先進校視察の結果について）>

（会長）

ただいまの事務局説明について、何かご質問ご意見があればお願いします。

特に無いようなので、次の意見交換に移る。前回の地域協議会での協議、そして今日説明いただいた教職員部会による協議内容、それから能勢ささゆり学園と東条学園の視察結果を踏まえて、改めて小中一貫校のあり方を整理していきたい。では事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今回の意見交換のテーマとしては、第2回地域協議会と同じ内容になるが、教職員部会の内容や能勢ささゆり学園、東条学園の視察結果を踏まえて、改めてこの3テーマについて意見交換をお願いしたい。

なぜ、もう一度この意見交換をするのかというと、これから学校の基本コンセプトをまとめた基本構想の案を作っていくが、この3つのテーマが非常に重要である。そのため、一度出していただいた意見を踏まえて、改めてブラッシュアップしたご意見をいただきたいと考えている。

例えば、新しい視点のご意見もあるかもしれないし、既に出た意見について改めて重要性を再確認したというご意見でも感想でも構わない。地域として、もしくは保護者として、学校に対してできることというようなご意見でも構わない。

なお、学校用地の選定については、次回以降、選定の考え方をお示したいと考えている。

<グループワーク>

(A グループ)

めざす児童生徒像や大切にしたい教育等についてはあまり意見が出ず、施設中心に意見を出して、それからフィードバックしていく方向でまとめた。

大切にしたい教育内容は、ゆとりや遊びの中から新しい想像力が培われていくので、遊びができる空間が大事、それから司書が子どもの図書の教育で大切だということ、部活動の地域移行についても予算が必要ということ、関西国際大学や兵庫教育大学等の大学との連携、副担任制等の意見があった。

それから設備的には、広いガラス窓は採光面で良いが維持管理が課題であり、また、遮熱ガラスや二重サッシの検討、広い駐車場、山や川などの自然が校内にある環境、学年に応じたプレイエリア、ゴルフや球技等の生涯スポーツにも使える芝生のスペースがあればいい等の意見があった。

校舎については、機能や教育内容を十分踏まえた上で、新築が良いのではないかとの意見が出た。

(B グループ)

こちら児童生徒像についての意見は、ほぼ出し終えたような形だが、自己肯定感を持った子どもで、社会に出ても活躍できるような教育が大切であるとの意見があった。

大切にしたい教育内容では、地域に関わり、吉川が好きになる教育、道徳や人権、市政を学ぶような教育が大事という意見があった。

施設について、最近安全面を考慮してかなり減っているが、運動や経験を積み、運動発達の向上に結びつく遊具、生き物と触れ合う環境、避難所として防災に対応したような学校づくり等の意見があった。

(C グループ)

今までの協議内容や見学等を踏まえて、特に重要だと思うところから出していき、話を進めた。

めざす児童生徒像では、学力向上、教科担任制による専門的な指導、主体性を育てるための子どもの興味や得意を伸ばす個別指導システム等の意見があった。

大切にしたい教育内容は、やはりふるさと教育で、酒米や苺、ぶどう、ゴルフ等の他、商業や工業面で協力いただけるところを探す、1人1台タブレットがあるので、吉川の良さをビジネス教育として、インターネットを使って広げていくというような視点を持った教育、英語教育、アメリカンスクールの併設という意見もあった。

施設については、体育の指導のためにグラウンドと体育館が大小2面、安全な動線を考えた広い駐車場、吉川町全体の避難所と考えて規模の大きな体育館、放課後にはエリアを切り分けて民間に貸出し、塾等を開く等の意見が出た。

また、先日の新聞記事で早ければ2029年度の開校をめざすという記事が出ていたが、そうすると広い敷地を早く押さえられるというような条件が、用地選定では必要になるだろうという意見が出た。

(Dグループ)

他のグループと同じような感じだが、教育内容は皆さん言われているように吉川を好きになる教育に力を入れてほしいという意見が多くあった。

他には広い駐車場は必須条件、山が多いので安全な通学路、子どもの数の減少を考えて、将来持て余さないような広すぎない施設、地域としっかり交流できる施設等の意見があった。

また、吉川小学校や吉川中学校、吉川総合公園の中を見ることはできるが、吉川高校には入れないので、そういう機会もあればいいのではという意見も出た。

(事務局)

たくさんのご意見いただき、感謝申し上げます。

第2回のブレインストーミングでの意見よりもブラッシュアップされた、より具体的に現実的なご意見が出たという印象を受けた。実際防災や通学の視点等で、これまでと違った新たな視点のご意見や、広い駐車場等再確認したご意見もあったが、今日いただいたご意見を含めて、引き続き、教職員部会と地域協議会と両方のご意見を参考にさせていただきながら進めていきたい。

(会長)

次回から計画の取りまとめに進んでいくことになろうかと思う。本日いただいたご意見をもう一度事務局で取りまとめてもらうのと、教職員部会との調整をお願いしながら、学校用地選定の考え方の案についてもまた協議を進めていくことになろうかと思う。また時間があるときに他市事例を研究していただけたらと思う。それでは副会長に閉会の挨拶をお願いします。

(副会長)

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。本日も非常に有意義なグルー

プワークだったと思う。先日の神戸新聞にもあったが、早ければ 2029 年の開校をめざして進んでいくと思われる。地域からも、そして他地域からも吉川に通いたいと思われるような施設一体型小中一貫校となるように、今後も皆さんと一緒に意見交換しながら進めていければと思うのでよろしくお願いします。ではこれで、第 4 回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会を閉会とする。